活動紹介 8

平成30年度 あしたのまち・くらしづくり活動賞
主催者賞受賞

「奥播磨かかしの里」のかかし製作・設置による過疎集落の活性化

兵庫県姫路市　ふるさとかかし親の会

ふるさとかかし親の会代表　岡上　正人

「ふるさとかかし親の会」は、地元の兵庫県姫路市安富町で「かかし」を製作、姫路市最奥の住民14名の過疎・高齢化の進んだ集落の一帯に設置し、「奥播磨かかしの里」として見物客を呼び込む村おこしを行っている。「かかし」といっても一般的にイメージされる一本足のかかしではなく、本物の人間そっくりのかかしで、素朴でほのぼのとした姿・表情を特徴としていることから「ふるさとかかし」とネーミングしている。

のどかな山里に、かかしを使って郷愁あふれる「日本の原風景」を再現することにより、訪れる人には癒しを、過疎で寂しくなる地元住民には村に誇りを持ち、訪れる人と交流することで元気になればと考え取り組んでいる。

現在までの製作数は約380体

現在までの製作数は約380体で、その内約130体を地元の「奥播磨かかしの里」に設置している他、イベント展示や貸出し対応用に約100体を倉庫に保管する。また、かかしの製作を知った各地の店舗や施設から製作依頼を受け約150体が、京都・大阪・神戸などを中心とした都市部に設置されている。

このかかしを設置いただいている店舗・施設を「かかしの里親団体」として組織化し、後述の「ふるさとかかしサミット」などのイベントにも参画いただいている。

各種メディアで紹介されたことや、口コミでも情報が広がり、神戸・大阪方面からも見物客が訪れる。特に、写真撮影スポットとして好適のため、写真愛好家や、写真同好会などのグループがよく訪れていて、さらに「過疎地の特性を活かした取り組み」として、各地の同様の活性化を考える団体の視察も受け入れている。

全国規模の発信で言えば一昨年前には朝日新聞の「天声人語」に過疎集落の町おこしとして活動の様子が詳しく取り上げられたほか、今年の1月にはBSテレビの旅番組で最終目的地として選ばれ、俳優の大杉漣さん（故人）が訪れたこともある。その放送の1ヵ月後に漣さんが亡くなられたこともあり、今でも漣さんファンが訪ねて来られることがある。

かかしのある山里風景

かかしの里のかかしは「風景と一体化したかかし」であることにこだわり、見物客には

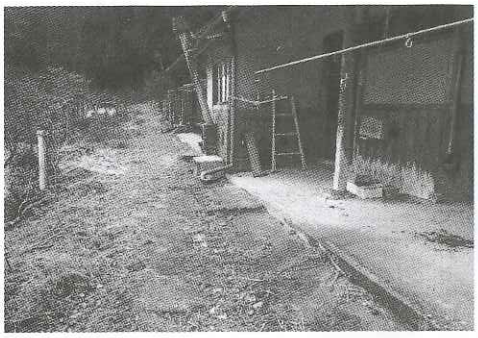
単にかかしを見てもらうのではなく、四季を通した「かかしのある山里風景」を見てもらうと考えている。したがって、村にある段々畑、古びて傾いた作業小屋、火の見櫓、バス停などは勿論、廃屋に至るまで昔懐かしい風情を醸し出すものはすべて地域資源と考えその保全と活用に取り組んでいる。

その代表的なものが空き家古民家を活用した「ふるさとかかしギャラリー」だ。築100年以上は経つ民家で、20年近く空き家で不要物の置き場になっていた建物だが、周辺の畑とともに一体的に整備しかかしの展示スペースとしている。このギャラリーだけで35体ほどのかかしが設置されている。

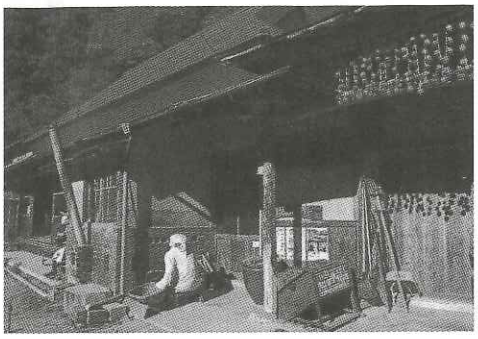
また、村の共同倉庫で、長い年月にわたり不要物が放置されていた建物を自治会の理解と協力により整備し、「かかしの教室」として展示スペースとしている。

この二つの施設は見物客の休憩・交流の場でもあり、年に何回かの「縁側カフェ」や「野外カフェ」などのイベントも開催している。

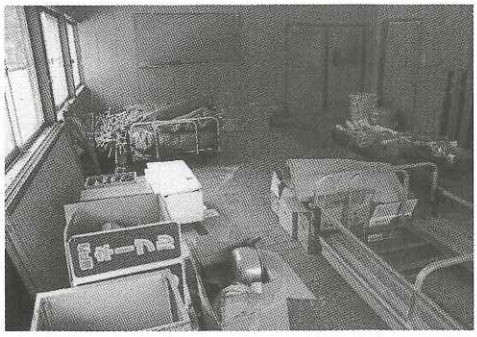
かかしの里は一年を通していつでもかかしが展示されているが、季節イベントとして、2月～3月には「奥播磨かかしの里のひなまつり」、11月には「ふるさとかかしサミット」を開催する。「ひなまつり」イベントは冬場の集客対策として、かかしの里ならではのかかしによる等身大のひな人形を展示し、巨大なひな壇の他、ひな人形が車座になって宴会をしているひな舞台や、ひな御殿などユニークで楽しい展示を行っている。「かかしサミット」は、かかしで町おこしをしている県内外の団体や、かかしを設置している店舗・施設（里親団体）がかかしと共に集合して交流を図るイベントで、住民14名の集落に、この日だけは見物客が3000人ほど訪れ賑わい



空き家古民家（整備前）



→ ふるさとかかしギャラリー（整備後）



空き家古民家（整備前）

→ かかしの教室（整備後）

をみせている。

将来的な方向

最近では「かかしの里」の情報を耳にし、自分たちの地域でもかかしによる町おこしをしたいとの相談も受けており、将来的には、各地の過疎地域にそれぞれの風景に合った「かかしの里」を展開、各地域の情報をネットワーク化し「かかしの里」の魅力をPR、「かかしの里めぐりツアー」が企画できるまでになればと考えている。

また、この「ふるさとかかし」を地域ブランドとして商品化、店舗・施設のディスプレー、各種イベントでの展示などに活用することを考えている。地域ブランドとして確立することにより、地元住民の郷土への誇り、かかし製作に携わることでの生きがいづくりにつながればと考えている。

「かかしの里」による村おこしの利点

「かかしの里」による村おこしの特徴・メリットは次のとおりと考える。

○過疎集落の空き家、倉庫などがそのまま展示施設として活用できる。

○低コスト（基本的にかかしの製作費用のみ。多額の投資は不要）

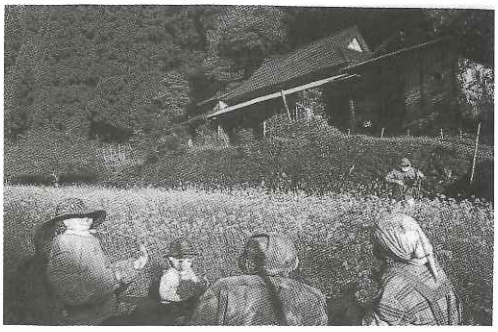
○低労力（地区住民のみで対応可。運営に多人数の労力、ボランティアの協力等も不要）

○設備不要（自然のまま、ありのままの姿でよい。むしろ、ありのままの姿に残す努力が必要）

○地元住民の生きがい、誇り（脚光をあびることでの郷土への誇り、見物客との交流）

以上のとおり、この村おこしは過疎集落の資源をそのまま活用、コスト、労力も多くは必要とせず、過疎地でも取り組み可能、持続性の面でも問題はなく、過疎の進行を逆手に活用した村おこしの切り札となるだろう。「昔懐かしい民家・田畑・小川の残る山里風景は貴重な観光資源」「何の変哲もない過疎の集落でも工夫しだいで魅力のある村になる」との想いで取り組んでいる。

奥播磨かかしの里の風景（手前の２人はかかし）



空き家古民家を活用した「ふるさとかかしギャラリー」（この４人もかかし）

視察団の来訪の一コマ（韓国ヨンイン市の農業関係者）

「第９回ふるさとかかしサミット」を開催